

モンゴルカレッジ プログラム

平成24年5月4日および5日

開催場所：練馬区光が丘図書館 2F 視聴覚室



1. 5月4日；13：00～13：30
日本モンゴル国交樹立40周年、将来への発展
講演者 ソドブジャムツ・フレルバートル

駐日モンゴル特命全権大使

国立師範大学卒業（1971年）、旧ソ連・モスクワ国際関係大学卒業（1976年）、旧ソ連・外交アカデミー修了（1991年）
外務省入省（1976年）、駐日大使館（1981-87年）、アジア局（1987-92年）、アジア・アフリカ局長（1992-97年）、駐日大使（1997-01年）、政策計画・情報・評価局顧問（2001-05年）、アジア局長（2005-08年）、駐北朝鮮特命全権大使（2008-11年）、駐日モンゴル特命全権大使（2012年より）



2. 5月4日；13：30～14：30
現代におけるモンゴル音楽芸術の方向性
講演者 ボル・ボルジゴン・ナツアグ・ジャンツァンノロブ 逐次通訳

モンゴル国立交響楽団作曲家

ソ連・ウクライナ国立キエフ音楽院修了、芸術学博士号取得（2009年）、モンゴル国立文化芸術大学名誉教授（2009年）
モンゴル人民共和国（当時）文化省音楽作品担当専門官（1979年～1981年）、モンゴル作曲家連盟会長（1983年～1990年）、ユネスコ国際音楽評議会モンゴル委員会委員長、文化省次官、第一次官、モンゴル国国家大会議員、モンゴル国文部省文化芸術政策チーム主任、局長、モンゴル国立交響楽団作曲家



3. 5月4日；14：30～15：30
モンゴル国の医療事情と発の外資系病院設立
講演者 野澤延行（のざわ のぶゆき）

インターフェロンアルファ 病院会長 ハッピーベリタス肝炎検査所会長

【講演要旨】モンゴル国民の10%がB型肝炎ウイルスに、17%がC型肝炎ウイルスのキャリア（保有者）という深刻な状況である。しかもそれは肝臓癌の主な起因となっており、ウイルス性肝炎の検査と治療が、モンゴル国民の重要課題でもある。2008年12月よりウランバートル市に検査機関ハッピーベリタス社を開設し、モンゴル国で初のウイルス定量PCRを導入したことにより、国内では不可能だった各B,C型肝炎ウイルスの定量検査を国内で可能とした。現在までに約3万人の検査を実施。さらに2010年12月に肝臓専門病院インターフェロンアルファ ホスピタル病院を開設した。病院開設までの試行錯誤と登記するまでモンゴル人院長と行いました。

動物：野澤クリニック院長

著書：「モンゴルの馬と遊牧民」（原書房）1991、「獣医さんのモンゴル騎行」（山と溪谷社）1994



4. 5月4日；15：30～16：30
モンゴル国における鉱業開発関連の諸問題
講演者 由川 稔（よしかわみのる）

大東文化大学経済学部および聖学院大学経済学部非常勤講師、大東文化大学東洋研究所兼任研究員

【講演要旨】モンゴルについては、最近特に地下資源開発に関する話題がしばしば取り上げられます。モンゴル国は確かに地下資源に恵まれた国ですが、その開発にはどんな問題があるのでしょうか。現状とは？将来像は？そして日本との関わりは...？モンゴル国は内陸国ですが、世界には内陸国でも経済発展を遂げた国と、そうでない国があります。地下資源についても、それが豊富にあることと、経済発展とは関係があるのでしょうか。いろいろ考えてみたいと思います。

1990年東京外国語大学モンゴル語学科卒。2001年、博士（経済学：大東文化大学）。モンゴル国立大学、ロンドン大学留学。1990～92年、外務省専門調査員（在モンゴル日本大使館勤務）。モンゴル国商工会議所名誉駐日代表、モンゴル鉱業投資促進協会理事・事務局長。森田朗編著『アジアの地方制度』（1998年、東京大学出版会）中、「モンゴル」他。



5. 5月5日；11：00～12：00
モンゴル人民共和国～モンゴル国における牧畜形態の変遷
講演者 尾崎孝宏（おざき たかひろ）

鹿児島大学法文学部人文学科地域環境講座 准教授

【講演要旨】モンゴル（人民共和）国において、牧畜は主にいわゆる遊牧、つまり移動的牧畜として営まれてきたが、その形態は決して不変ではなく、ここ半世紀の間にも幾度の変遷を経ている。本講演では、1950年代末に開始する社会主義集団化による牧畜の政府管理、1990年代初頭の市場経済化による家畜私有化、1990年代末のソド（寒害）と前後して発生する郊外化、2000年代後半に激増する鉱山との関係などをキーワードとして、その変遷を解説する。

東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程 1999年3月単位取得退学、1999年より現職。主な著作は、長沢孝司・尾崎孝宏（編）『モンゴル遊牧社会と馬文化』日本経済評論社（2008）、J.サロール・ボヤン（著）・尾崎孝宏（編訳）『セツェン＝ハンの駿馬-モンゴルの馬文化-』礼文出版（2000）。



6. 5月5日；13：00～14：00
モンゴル草原の環境問題
講演者 藤田 昇（ふじた のぼる）

総合地球環境学研究所客員准教授、京大理事

【講演要旨】モンゴル草原では砂漠化が進んでいるといわれる。植生が無くなるという意味ではほとんど見られないが、植生の退化や土壌浸食という意味では広がっている。また、地球温暖化による乾燥化がいわれるが、植生の退化との区別は難しい。家畜が食べるのを好まない摂食耐性植物の増加と灌木群落の衰退という視点から草原の環境問題を考える。同時に、地球温暖化に際して、モンゴルでは降水量の増減が鍵となることを論じる。

京都大学生態学研究中心准教授を経て現職。著書：(2007)里山生態系と草原生態系の新しい危機In:生物の多様性ってなんだろう？生命のジグソーパズル 京都大学総合博物館、京都大学生態学研究中心（著）京都大学出版会、(2003)草原植物の生態と遊牧地の持続的利用 植物学からみたモンゴル高原 科学：73



7. 5月5日；14：00～15：00
モンゴル国農畜業の激動の半世紀とその将来展望
講演者 小宮山 博（こみやま ひろし）

独立行政法人 国際農林水産業研究センター 企画調整部 企画管理室長

21年の人民革命後に社会主義計画経済体制となり、1950年代後半には家畜の集団化や国营農場の設立等が推し進められた。このことにより、飼料生産や獣医サービスなどが整備され、牧畜生産は安定し、また、小麦等の生産も急速に拡大した。しかし、1990年の民主主義市場経済体制移行後、家畜や国营農場の私有化が行われ、畜産の激減や畜畜の不安定化に直面した。本講演では、1950年代後半から今日までの農畜業の激動の半世紀を紹介するとともに、現状と課題や将来展望について述べる。

1985～2003年まで農水省国際部に所属し、この間に在アルバ日本大使館書記官（3年間）、JICA農畜政策アドバイザーに2年間従事。2003年より現所属となり、乾燥地（主にモンゴル、アフガニスタン）の農畜研究に従事。2006年経済学博士。

開催場所である練馬区光が丘図書館は、モンゴルカレッジとは何ら関係がありませんので、図書館に一切本件に関する問い合わせをしないでください

モンゴルカレッジ担当：パーサンドルジ・アルタンゲレル、出口英昭
Photo by 出口英昭